世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報　2012.11.25/12.5　№.152　連絡先 FAX 042-555-1911

日本平和大会 11月23日～25日 東京で

☆ 平和なアジアをめざす国際シンポジウム

23 日、ASEAN（東南アジア諸国連合）の政府代表が初めて参加。議長国カンボジアのノン・サカル氏が講演しました。シンポジウムのパネリストは、ジョセフ・ガーソン氏（アメリカ）、ローランド・G・シンプラン氏（フィリピン）、ジュリアン・アグオン氏（グアム）、イ・テホ氏（韓国）、川田忠明氏（日本）でした。

☆ 分科会・フィールドワークと全体交流集会

24 日は分科会等が終わったあと、日比谷公会堂で全体交流集会でした。最後はみんなでカチャーシーです。

☆ 首都から基地ノー！　福生公園で閉会集会

25 日は閉会集会でした。沖縄代表団の横断幕はじめ、全国各地からの幟（のぼり）がはためきました。集会後、海外からの参加者を先頭に、横田基地の第 5 ゲートから第 2 ゲートを通り福生市街をパレードしました。

オスプレイの本土運用「通報はまだ受けていない」と森本防衛大臣

11 月 27 日、森本敏防衛大臣は横田基地を訪れ、アンジェレラ在日米軍司令官と会談しました。

森本防衛大臣は 30 日の記者会見で、普天間配備のオスプレイの本格運用の時期について記者に問われ、「12 月上旬に、いわゆる『ＦＯＣ』というのでしょうか、完全な運用能力を備えるという時期になるのではないかという見通しが説明されただけです。」「在日米軍司令官から、本土における低空飛行訓練を行うという通報はまだ受けておりません。」と答えています。

夜間外出禁止守らず 米兵犯罪は起きる それで福生市をパトロール？

米兵の夜間外出禁止令が出された 10 月 19 日以降も、米兵犯罪が相次いで起きています。

森本敏防衛相は 11 月 27 日、東京都福生市の航空総隊司令部でアンジェレラ在日米軍司令官と会談し、沖縄県などで相次ぐ米兵犯罪の再発防止策として「米軍と日本の警察による共同パトロールをする方法ができないか」と提案したそうです。アンジェレラ司令官は「興味がある案なので検討したい」と応じたということですが…。

抜本解決にならない提案です。

米軍横田基地のホームページは、在日米軍司令官のアンジェレラ中将と第 374 空輸航空団司令官のマーク大佐が、福生市内の "バー・ロー"として知られているエリアの街のパトロールを 2012 年 11 月 30 日に実施したと報じ、写真（左）も掲載されています。地域社会を安心させるために、といいますが、市民はどう感じたでしょうか。このような服装で、街中を歩いてほしくありません。

オバマ米大統領が横田基地へ　大統領専用機の給油のため

（№152 の裏面）

オバマ米大統領は 11 月 21 日未明、東アジアサミット出席などのため訪れていたカンボジアから米国への帰途、大統領専用機の給油のため横田基地に立ち寄りました。約２時間で給油を終え、米国に向け出発しました。（右は大統領専用機、米軍ＨＰより）

横田基地の燃料貯蔵量は？「航空燃料について」（福生市ホームページより）

「航空燃料は、ＪＲの貨車輸送によって行なわれており、主として、鶴見貯油施設から、南武線、青梅線を経由して拝島駅からの引込線により運ばれ、基地内のタンクに貯蔵されている。燃料タンクは昭和 46 年に設置された 5 万バーレルのものが一基と昭和 63 年に設置された半地下覆土式の 10 万バーレルのものが一基設置されている。また、平成 8 年にパッセンジャーターミナル横に 5 千バーレル二基の地下タンクが設置された。平成 17 年に滑走路南側に 10 万バーレル二基の半地下式タンクが設置されている。」

岩国の米海兵隊が海外で訓練　日本側が 3／4 費用負担の異常

防衛省によると、岩国の 米第 12 海兵航空群等が、11 月 29 日（木）～ 12 月 18 日（火）まで、グアム島のアンダーセン空軍基地及び北マリアナ諸島のファラロン・デ・メディニラ空対地射場で、戦闘機戦闘訓練、空対地射爆撃訓練を行います。 参加規模は、FA-18 × 20 機程度、空中給油機× 3 機、MV-22 × 4 機等 人員約 880 名程度です。

この訓練に、普天間基地所属の垂直離着陸機 MV-22 オスプレイが参加することを、在沖縄米海兵隊司令部は明らかにしました。沖縄への強行配備後、海外での訓練は初めてです。日本防衛とは無縁の地球規模での“殴りこみ”能力強化の訓練です。

この訓練は、本来であれば嘉手納飛行場で実施予定であった岩国飛行場の航空機による訓練をグアム等へ移転して行うので、日本側が 4 分の 3 の財政負担をするのだそうです。米海兵隊の海外での訓練に、日本が財政負担するのは、異常です。このような日米関係は NO ！

イラク帰還の自衛隊員　自殺率はとても高い

米兵の自殺者が増加していますが、イラク帰還の自衛隊員の自殺率はとても高い。

少し前になりますが、『東京新聞』9 月 27 日付に、「イラク帰還隊員　25 人自殺」という、半田滋編集委員の署名記事が掲載されました。以下その記事から一部抜粋します。

《2003 年に米国主導で始まったイラク戦争に関連して、中東へ部隊派遣された自衛官のうち、先月（8 月）までに 25 人が帰国後に自殺していたことが防衛省への取材で分かった。陸上自衛隊は 19 人、航空自衛隊は 6 人に上る。陸自は 04 ～ 06 年、イラク南部のサマワに合計 5,500 人を派遣し、空自は 04 ～ 08 年、合計 3,600 人をクウェートに派遣した。海上自衛隊は現地駐留せず、自殺者もいなかった。自衛隊全体の 2011 年度の自殺者は 78 人で、自殺率を示す 10 万人あたり換算で 34.2 人。イラク特措法で派遣され、帰国後に自殺した隊員を 10 万人あたりに置き換えると陸自は 345.5 人で自衛隊全体の 10 倍、空自は 166.7 人で 5 倍になる。》

イラクから帰還した陸上自衛隊員の自殺率 10 万人当たり 345.5 というのは、2011 年の日本全体の自殺率 24.0 と比べると、14.39 倍もの高率となる驚くべき数字になっているのです。

いま「集団的自衛権を行使できるようにせよ」という声があります。集団的自衛権とは、日本がどの国からも攻撃されていないのに、アメリカが海外で戦争を始めたら、一緒になって戦争ができる国にしよう、ということです。憲法 9 条も変え、自衛隊を戦争する軍隊に変えることです。

戦争で若者の命が奪われることも、軍隊で命が蝕まれることも、あってはならないと思います。